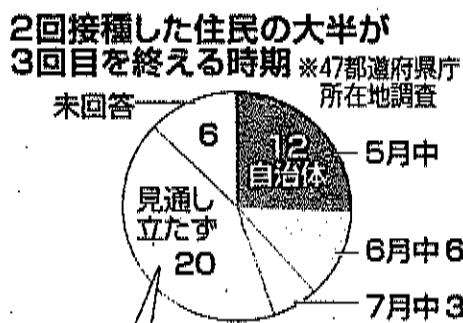


現役世代 3回目低調

4/10 神井

県庁所在地調査 31市、2~3割



新型コロナウイルスワクチンの3回目接種について、都道府県庁所在地の47市区のうち福井など31市（66・0%）が、18～64歳の現役世代の接種率が3月末時点で20～30%程度だったことが9日、共同通信の調査で分かった。2回目を

打った住民の大半が3回目を打ち終える時期を尋ねると「見通し立たず」との答えが20市区（42・6%）に上った。【30面に関連記事】接種率向上の課題（複数回答）では「副反応への懸念払拭」（40市区）が最多。「3回目の意義が漫透していない」

主な理由

- ・全人口の7割超となるには2回完了者の9割超が接種する必要がある。必要な体制は用意しているが、若年層を中心に接種率が伸び悩んでいる（前橋）
- ・現段階では見通しが立たない（名古屋）
- ・3回目を敬遠する人が一定数いると考えられ、希望する人の把握が困難（高松）

18～64歳の接種率は7市が約20%、8市が約25%、福井など最多の16市が約30%と回答し、「」までで3分の2を占めた。約35%を打ち終えたとしたのは8市で、約40%は3市。約45%は岡山を含む5市だった。一方、65歳以上の高齢者90%の人に打った。

（31市区）、「有効性・安全性に関する政府広報が足りない」（27市区）が続いた。コロナ感染が再拡大始める中、接種促進への苦慮がうかがえる。

調査は3月29日～4月7日、47市区（東京は新宿区）を対象に行った。

2回打った人は全人口の約8割。このうちの9割程度の人が3回目を打つと全人口の7割が3回目完了者となる。これを踏まえ、調査で「3回目の接種率が全人口の7割を超えるのはいつ」「いか」を聞いた。見通しが立たないと答えたのは福井や仙台、大分を含む20市区。前橋は「必要な体制は用意しているが、若年層を中心に伸び悩んでいる」と説明した。

札幌やさいたまなど12市は「5月中」、高知を含む6市は「6月中」と答えた。いずれも「今の予約状況が続けば」（秋田、神戸など）といった条件付きが目立った。